◇平成 18 年度　秋季講習会のお知らせ◇

環境変化と地下水

主　催　社団法人　地下水技術協会

後　援　国　土　交　通　省

協　賛　（社）土木学会・（社）地盤工学会
（社）日本トンネル技術協会
日本地下水学会・日本応用地質学

本協会は、昭和 40 年 8 月社団法人として国土交通大臣（旧建設大臣）の認可をいただき、昨年で 40 周年の節目を迎えました。当協会の主たる活動としては、月刊誌「地下水技術」を毎月発刊することと、技術講習会を毎年開催し、「地下水の保全と有効利用の促進」に係わる地下水技術の調査・研究、ならびに地下水に関する正しい知識の普及および技術の発展向上・指導に努めてまいりました。

山紫水明に恵まれた我が国は、古より水田農耕の発達に伴い居住区が形成されていたが、近年に至って高度成長期のバブル景気以降、山地近傍に工場・倉庫が立地し、自然環境に大きな変化をもたらしました。

世は挙げて二酸化炭素の大気放出を抑制すべく努力が続けられていますが、温暖化の傾向は疑うべくもなく、近年気象異変をきたし、たとえば梅雨前線が同じ地域に停滞して観測史上初めてという降雨量をもたらし、水分を地下に過剰飽和させて洪水や山崩れを惹き起こし、その惨状たるや眼を覆うものがあります。その外、最近の地下水涵養機構の変化や山地森林地域の林相変化、土壌汚染の地下水への影響など、環境変化と地下水の関係がクローズアップされてきています。

このような時機に、当協会は主務官庁である国土交通省のご後援のもと、各関係団体から協賛をいただき、今後の地下水技術に関する皆様の研鑽の参考に供することを目的に、今回の講習会をテーマは「環境変化と地下水」として、下記要領で開催することにいたしました。

本講習会のテーマに関しては、この問題の斯界の権威者及び第一線の研究者・実務者である講師の方々からご講演いただくことにしておりますが、未来に続く湧水・井戸水の水質の維持や地下水をめぐる環境の保全のみならず、それらを水源とする河川水の保全に関しても、当講習会は時代の要請にこたえるものと確信しております。ぜひ友人知人にもお声掛け下さいましてご参加くださいますよう、ご案内を申し上げます。なお、当講習会は、土木学会継続教育（CPD）プログラムとして認定（認定番号 JSCE06-455、CPD時間 6.2 単位）されております。

開　催　要　領

開 催 日　**平成 18 年 11 月 17 日（金） 9:45～17:10**

場　　所　東京都新宿区山吹町１１―１　**測量年金会館（2階大会議室）**
電話　03－3235－7271（代）

交　　通　地下鉄　江戸川橋駅下車（有楽町線）・神楽坂駅下車（東西線）徒歩５分

会　　費　会　員　金 9,000 円（講習会テキスト代を含む）
非会員　金 11,000 円（講習会テキスト代を含む）

申 込 先　社団法人　地下水技術協会
〒101-0061　東京都千代田区三崎町 1-1-14　三崎町大島ビル
電話　03-3293-8478・FAX　03-3293-8479　E-mail ： admin@jgwater.or.jp

申込方法　協会機関誌・平成 18 年 8 月号同封の書式によるか、あるいは会社名・団体名、所在地、所属部課、受講者氏名を協会メールアドレス宛通知のうえ、下記銀行・郵便局へ会費をお振込み下さい。
三菱東京 UFJ 銀行　神保町支店（普通）No.0139776
神田三崎町郵便局　00160－3－84492

JSCE06-455
土木学会認定
CPD プログラム
CPD時間　6.2 単位

－－－

社団法人地下水技術協会

平成 18 年度秋季講習会

「環境変化と地下水」

主催　社団法人地下水技術協会
後援　国土交通省
協賛　(社)土木学会、(社)地盤工学会、(社)日本トンネル技術協会、日本地下水学会、日本応用地質学会

平成18年11月17日　　**場所:測量年金会館(2階会議室)**

講演会プログラム		
9:45	開会挨拶	講演要旨
9:50	来賓挨拶	
10:00	**地球温暖化と地下水** 筑波大学名誉教授 **樋根　勇**	大気中の二酸化炭素濃度が増加すると、太陽から地球が受け取る正味の放射量が増加するので、低緯度海域の海面水温が上昇し、海面蒸発量が増加する。蒸発は広域面から緩やかに起こる過程であるが、降水は狭い範囲で急激に起こる現象であるので、地球が温暖化すると水循環が強化される。水循環と大気大循環は同時に強化されるので、地球温暖化は砂漠化の進行も強める。降水の地域的・時間的な変動性が強まるので、乾燥地域・湿潤地域を問わず、地表水だけに依存した水利用は不安定になる。地下水は貯留量が大きく、安定した水資源であるので、地表水と地下水を一体として管理・利用する地域水利用システムの構築が、温暖化した地球では不可欠になる。
11:00	**沿岸域の地下水環境と地質プロセス** 東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 助教授 **徳永　朋祥**	沿岸域における地下水環境に関しては、揚水に伴う塩水浸入を対象とした研究を端緒とし、様々な研究が進展してきている。その過程で、海底からの地下水湧出の重要性や海水準変動に伴う地下水挙動といった興味深い現象に関していくつもの成果があがってきている。本講演では、演者が中心となって行ってきた沿岸域・沿岸海底下の地下水環境に関する研究、特に、淡水性地下水湧出現象と地質の関係、沿岸海底下に存在する淡水塊と地球表層環境変動との関連について話題提供を行う。
12:00	昼食	
13:00	**都市部の地下水環境について** **(東京の事例)** 東京都第二建設事務所 **国分　邦紀**	市街地の発達による不浸透域の拡大は、都市の水循環を大きく変化させている。水収支の変化事例、地下水涵養施策などについて報告する。 深層地下水については、揚水規制により地下水位が上昇、地下構造物に揚圧力となって影響を及ぼす事例が見られるようになった。汲み上げた余剰地下水の河川環境用水として有効利用する例、地下鉄トンネル湧水の再利用例等を紹介する。 また道路整備などで地下式や半地下構造を採用する事例などが増加し、地下水の流動阻害対策として地下水流動保全工法などの事例を報告する。
14:00	**富山県の地下水保全施策について** 富山県生活環境文化部 環境保全課長 **岩田　助和**	富山県は、降水量が多く、黒部川扇状地に代表されるように、地質的にも優れた扇状地を有していることから、豊富な地下水に恵まれ、産業活動や日常生活に多大な恩恵を受けてきた。 この県民共有の貴重な財産である地下水を保全し、また、適正に利用するために、県民、事業者、市町村の協力のもと展開してきた地下水保全施策について紹介する。 また、昨年度環境省等と実施した、休耕田における地下水涵養手法の検討結果も、あわせて紹介する。
15:00	**最近50年の日本の森林変化と土砂災害発生の動向** **ー水循環を基礎としてー** 東京大学大学院 森林科学専攻 教授 **鈴木　雅一**	国土の2／3をしめる森林は、森林面積の変化、人工林の拡大、林齢の変化を伴い、長期的に見ると大きく変わっている。「近年次第に森が劣化している」という理解が広くあるが、一方では外国産の木材輸入などによる国内の森林伐採の減少は、森林を繁らせ、かつてないほどのバイオマスを蓄積しているという事実も踏まえる必要がある。この変化は、山地における水の流れ方や豪雨がもたらす山地災害にも影響を及ぼしている。山地における降雨－地中貯留－流出のプロセスを説明し、森林の変化と土砂災害の長期的な動向の対応関係について解説する。
16:00	**土壌・地下水汚染に関する技術動向** 応用地質株式会社 東京本社 技術参与 **奥村　興平**	土壌・地下水汚染問題においては，地盤中の汚染の可視化とその挙動把握が調査の要点であり，その結果に基づいて環境リスクの最小化と費用対効果の最大化を目指した対策が検討される．とくに，調査においては有害物質の性状と地盤状況を踏まえた試料採取及び分析精度管理が重要であり，対策においては地下水や土地利用の状況等に応じた検討が必要である．また，新しい技術として油汚染対策ガイドラインに関する調査，油や揮発性物質汚染のバイオによる原位置浄化に関心が高まっている．
17:00	閉会挨拶	